
 学 会 記 事

第 276 回新潟循環器談話会

日 時 平成 25 年 9 月 28 日 (土)
午後 3 時～
会 場 新潟大学医学部 第五講義室

I. 一 般 演 題

1 非肥満日本人男性において安静時心拍数の増加はメタボリック症候群の予知因子である

小田 栄司

たちかわ総合健診センター

【目的】自律神経機能障害の指標である安静時心拍数がメタボリック症候群の予知因子となるかどうかを肥満の有無別と性別に検討する。

【対象】2008 年度に、メタボリック症候群でなく、心臓血管病の既往がなく、糖尿病、高血圧、高脂血症の薬剤投与を受けていなくて、同意書に署名した人のうち、以後 3 年間に再受診した日本人男性 1,265 人と女性 793 人。

【方法】3 年間にわたるメタボリック症候群発生のハザード比 (HR) を、心拍数の 1 SD 増加と

広川先生への回答

心拍数の各 3 分位数群におけるメタボリック症候群の発生率 (%)

	T1	T2	T3	p for trend
非肥満男性 (n=1,044)	3.7	6.8	8.8	0.007
心拍数範囲 (平均値)	38-54 (50)/min	55-61 (58)/min	62-108 (68)/min	
肥満男性 (n=196)	15.4	26.6	20.9	0.444
心拍数範囲 (平均値)	40-55 (51)/min	56-61 (59)/min	62-86 (68)/min	
非肥満女性 (n=689)	3.3	4.5	4.3	0.555
心拍数範囲 (平均値)	41-57 (53)/min	58-63 (61)/min	64-95 (70)/min	
肥満女性 (n=87)	16.7	24.1	25	0.440
心拍数範囲 (平均値)	45-57 (53)/min	58-64 (61)/min	65-98 (72)/min	

心拍数の最小 3 分位数群を基準とした最大 3 分位数群について計算した。

【結果】心拍数の 1 SD 増加に対する HR [95 % 信頼区間 (CI)] は、年齢, BMI, 喫煙, 飲酒, 身体活動で補正して、非肥満男性では 1.319 (1.035-1.681) ($p = 0.025$), 肥満男性では 1.172 (0.825-1.665) ($p = 0.377$), 非肥満女性では 1.115 (0.773-1.608) ($p = 0.560$), 肥満女性では 1.401 (0.944-2.078) ($p = 0.094$) であった。心拍数の最大 3 分位数群に対する HR [95 % CI] は、年齢, メタボリック症候群各成分の有無, 喫煙, 飲酒, 身体活動で補正して、非肥満男性では 2.14 (1.07-4.27) ($p = 0.03$), 肥満男性では 1.34 (0.57-3.18) ($p = 0.51$), 非肥満女性では 0.83 (0.29-2.36) ($p = 0.73$), 肥満女性では 1.33 (0.67-2.67) ($p = 0.42$) であった。

【結論】非肥満日本人男性において安静時心拍数の増加はメタボリック症候群の予知因子であった。

【考察】非肥満男性では運動等によって安静時心拍数を下げることでメタボリック症候群を予防できる可能性が示唆された。日本には非肥満者でリスクを有する人が多く、文献的にも肥満者では主としてカロリー過剰摂取がリスクとなり、非肥満者では主として運動不足がリスクになると報告されている。したがって、肥満を必須条件とした日本のメタボリックシンドロームの考え方とそれに基づく特定健診・保健指導は問題である。